

宮澤賢治センター通信

(岩手大学内)

(題 字/金森由利子)

第3号

発行人

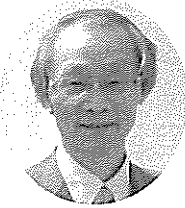
〒020-8551
盛岡市上田四丁目3番5号
電話 019-621-6672
FAX 019-621-6493
宮澤賢治センター (岩手大学内)
発行責任者 望月善次

目次

- 巻頭言 代表挨拶
この1年の歩み……………1
- 2007年度の中心事業
新役員からのメッセージ……………2
- 本会の規約(案)
役員と事務局名簿……………3
- 定例研究会の概要……………4~6
- 宮澤賢治記念短歌会……………7
- 第2回全国宮澤賢治学生大会……………8
- 全国宮澤賢治学生研究会……………9
- 「会員」の声……………10・11
- ホームページの紹介……………12
- 編集後記……………12

「賢治への関心」の多様な結集を!

賢治のあらゆる側面を包み込んだ豊かな交響楽の形成へ



宮澤賢治センター代表 望月善次

「宮澤賢治への関心」を結集するを掲げて、昨年六月に出

発した「宮澤賢治センター」は、二年目を迎えています。幸い全国の皆様からの御支援を得て、登録会員は四百名を越えています。(関心)の結集ですから、狭義の「研究的なもの」に特化していかないことがその特徴です。

先ず、「全国宮澤賢治学生大会」を開催しました。昨年の二〇〇六年八月二十八・二十九の両日に、賢治縁りの岩手大学農学部附属農業教育資料館で行われた大会は、稲垣大助委員長を始めとする学生達の活躍により、多くの方々からの注目を集めました。学生達は、その後「全国宮澤賢治学生研究会」を立ち上げ、既に十回の定例研究会も重ねています。「若い力」による

今年の第二回大会は一層の発展を期待できると思います。

もちろん、研究的な側面を無視しているわけではありません。岩手大学内外の多様な話題提供者による月例研究会を休むことなく重ねていますし、宮澤賢治研究の拠点、宮澤賢治学会イーハトーブセンターや宮澤賢治記念館との連携も深めています。

六月からは、月例会終了後に「ミニ・茶話会」を開催して、会員の一層の交流を図っています。その他の企画としては、「宮澤賢治記念短歌会」、「賢治バスツアー」、「賢治ウォーク」を行いました。

「賢治ウォーク」は、「宮澤賢治歩行詩考」でも知られる岡澤敏男さんという、又とない解説者をお迎えし、今年も賢治が

小岩井農場を歩いた「五月二十一日」のウォークを実現しました。岡澤ファンや伝統ある「宮澤賢治の会」の皆様とも一緒にできたことも嬉しいことでした。

賢治が遺言で三十二の「経埋ムベキ山」を指定したことは良く知られています。宮澤雄造宮澤賢治記念館館長のお教えも受けながら、今年から数年計画で、「経埋ムベキ山」登山の金山登山を企画しました。「盛岡山友会」の江刺家誠さんの協力に依るものです。

昨年一年間の活動の実績を踏まえ、運営体制やこの「通信」の発行にも、新しい工夫を加えました。多面体である賢治の長短の全てを包み込んだ「豊かな交響楽」を形成すべく、皆様と共に歩みたいと思います。

この一年の歩み

宮澤賢治センター開設三二パーテイ

平成18年6月29日、第一回月例研究会の終了後、岩手大学内の「イン・シーズン」で、平山健一学長以下関係者と、一般市民の有志も交え、賢治に対する思いを交歓した。

月例研究会

▽第1回(6月29日) 望月善次センター代表「羅須地人協会時代の絶望の深さ」賢治魅りの契機の一つとして」

▽第2回(7月27日) 松元季久代講師「森に隠された三陸アワビ騒動」学術的研究の宝庫としての賢治」

▽第3回(9月8日) 農学部鈴木幸一教授「村松博士から賢治へ」

▽第4回(11月8日) 亀井茂農学部附属農業教育資料館研究員「賢治の得業論文について」

▽第5回(12月15日) 砂山稔副代表「詩語としての『銀河』」李白から賢治へ」

第二回全国宮澤賢治学生大会

◇開催日時、8月28日(月)・29日(火)。会場、岩手大学農学部附属農業教育資料館。

■研究交流発表者

◇深見美希(日本女子大学大学院)

◇稲垣大助(岩手大学大学院)

◇下家美里(岩手大学大学院)

◇芳賀洋平(盛岡大学)

■基調講演
◇P・A・ジョージ(インド、ジャワハルラル・ネルー大学)

◇原子朗(宮澤賢治イーハトーブ館長)

宮澤賢治記念短歌会

◇7月6日の第一回以来、会場を大学内の「百年記念館」として、毎月一回の開催。今のところ、会員は男性5人・女性5人で、最近では各自5首程度を持ち寄っている。

賢治を訪ねるバスツアー

◇9月3日 盛岡市内から花巻市内まで。(案内人・望月代表)

小岩井農場ウォーク・ツアー

◇10月15日 小岩井駅前から「まさば園」まで徒歩。(案内人・賢治研究者、岡澤敏男氏)

宮澤賢治センター(岩手大学内)規約(案)

10月11日(木)の総会にて正式決定します。ご意見をお寄せください。

- 第1条 名称 この会は、「宮澤賢治センター(岩手大学内)(以下、「本会」という。)」と称す。
第2条 目的 本会は、宮澤賢治についての多くの関心を結集し、会員相互の交流を促進して、賢治研究の普及と発展に努めることを目的とする。
第3条 事業 前条の目的を達成するため、次の事業を行う。
(1) 定例研究会
(2) 全国宮澤賢治学生大会
(3) 会員の主催する賢治関連企画
(4) その他必要な事業
第4条 会員 宮澤賢治について関心があり、本会の目的に賛同する者は誰でも会員になることができる。なお、会費は当分、徴収しない。
第5条 役員 本会に、次の役員を置く。
(1) 代表 1名 本会を代表し会務を総括する。
(2) 副代表 1名 代表を補佐し、代表に事故あるときはその職務を代行する。
(3) 理事 若干名 役員会の構成員として、会の運営の審議に当たる。
2 任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、連続任期は3年までとする。
3 各役員は総会において会員の中から選出する。選出方法の詳細については、別に定める。
第6条 事務局 事務局に事務局長、事務局次長、幹事を置く。
(1) 事務局長 1名 日常的な会務の処理・運営上の調整等を行う。
(2) 事務局次長 2名 事務局長を補佐し、事務局長に事故あるときはその職務を代行する。
(3) 幹事 若干名 会の実務を処理する。
2 事務局長、事務局次長は、役員会において互選する。
3 幹事は、役員会において会員中より推薦し、代表がこれを委嘱する。
4 事務局を岩手大学百年記念館に置く。ただし、日常的な連絡場所は、岩手大学地域連携推進センターとする。
第7条 総会 総会は、代表が招集する定例総会を年1回開催する。なお、役員会の決定または会員の三分の一以上の要請があれば臨時総会を開くことができる。
2 総会の議長は、代表が務める。
3 総会の議決事項は次のとおりとする。
(1) 事業報告

- (2) 事業計画
(3) 規約の制定及び改正
(4) 役員の出選及び改選
(5) その他必要と認められる事項
第8条 役員会 役員会は、代表、副代表、理事、および事務局長、事務局次長によって構成し、必要の都度開催して次の事項を審議する。
(1) 総会の付議事項
(2) 会員の入会及び退会
(3) 本会の業務遂行上、緊急かつ重要な事項
(4) 総会で決定した事項の具体的運営について
(5) その他、必要と認められる事項
第9条 事務局会議 事務局会議は、代表、副代表、事務局長、事務局次長、幹事によって構成し、日常会務及び役員会の議題の整理等を行う。(付則)
この規約は、2007年 月 日から施行する。

宮澤賢治センター(岩手大学内)役員・事務局名簿

(平成19年8月1日現在、理事・幹事はアイウエオ順、○は新任)

Table with 3 columns: Position (代表, 副代表, 理事, 事務局次長, 幹事), Name, and Affiliation (岩手大学名誉教授・特任教授, 岩手大学ミュージアム館長, etc.)

会員名簿作成中

▽会員が次第に増加し400人を越えています。事務局では、来るべき10月の総会に向けて、名簿を編集・取り纏め中です。
▽現在でも、会員を募集中(会費は徴収致しません)ですので、希望者は末尾記載の事務局まで申し込んで下さい。

在ソフトウェア情報学部教授として勤務しています。パリ大学客員教授の他、EJや北米の多くの大学から招待されたり、それ等の大学の大学院生の指導を行うなど、活動は海外にも広がっています。宮澤賢治については、哲学的・心理学的・文化的・自然地理学的・技術的諸原理を統合し、Virtual Miyazawa Kenji systemsとしての解明を行おうとしています。具体的には、第一にログラム、第二にユーザーの感情的交流反応、第三に声、第四にその統合についての考察に基づく賢治ロボットを目指していますが、詳しくは、ホームページ http://www.fuji-software-pu.ac.jp/をご覧ください。どうぞよろしくお願ひ致します。(英文原稿を御本人の了解のもと要約しました。(文責 望月善次))

2007年度の中心的事業

昨年6月1日に発足した「宮澤賢治センター」は、多くの賛同者を得ながら1年間を経過しています。4月以降は新しい執行体制を整備して、毎月一回の事務局会議と役員会を開催しながら、具体的な活動計画と規約の制定に努めています。その主要事項と、新役員の本会に対するメッセージを取り纏めました。

新事業

1周年記念会と総会の開催

期日 10月11日(木) 詳細は検討中。

「経理ムベキ山」登山の実施

賢治が「雨ニモマケズ」手帳に書き残した32の登山を計画中です。第1回として「愛宕山・岩山」を実施し、6頁に概要を掲載しました。

継続事業

第2回全国宮澤賢治学生大会の開催

期日 10月6日(土)・7日(日) 詳細は、8頁をご覧ください。

定例研究会 宮澤賢治記念短歌会

全国宮澤賢治学生研究会

昨年に引き続き、定期的に開催しています。特に「定例研究会」は本会の中心的事業として、6月からは1時間の講演終了後に、更に1時間の「ミニ・茶話会」を設定し、講師との意見交換を重ねています。

賢治バス・ツアー 賢治ウオーク

この行事も好評で、参加者が増加しています。

新役員からのメッセージ

賢治の青春の地に



岩手医科大学教授 (共通教育センター) 黒澤 勉

皆様と共に、こうした問題についても語り合い、学びあうことができれば幸いです。

総合的なセンターへ

盛岡大学教授 須藤 宏明

望月先生のお誘いがあり、この度、宮澤賢治センターに入会させて頂くことになりました。「どなたもどうかお入り下さい」「賢治への関心それだけが条件です」簡潔にして素敵なご案内のもとに、こうしたセンターが、賢治の青春の地に、しかも、その母校に出来たことは、画期的なことです。賢治研究、特に、大学生を初めとする青年達を取り込んでの活動は全国にもない貴重なものだと思います。大学人、学生、市民をつなぐ賢治研究、賢治を通しての交流の場として発展していくことを願っています。

テクスト論が提唱されるようになって久しいが、ジェラルド・ジュネットが「スイユ」(水声社、二〇〇一年)で提示したパラテクストという概念は、賢治研究にとっても今後の指標をもたらしていると思われる。パラテクストの「パラ」はパラサイトの「パラ」と同質の、付帯する、纏わり付くという意味である。ジュネットは、作者などの情報を取り除いた本文そのものを、いわば裸のテクストと位置づけ、序文・あとがき・作者名などの付帯的な情報を取り込んだテクストをパラテクストとして成立させている。このことは「パラ」の部分だけの先行、例えば、作品を読んだことがなくとも『銀河鉄道の夜』と宮澤賢治は知っているという現象を、どのように考えるのかという問いにも繋がる。

バーチャル・ケンジ



岩手県立大学教授 藤田八三郎

一九八八年東北大学で博士号取得。東北大学客員教授、東京大学助教授、モンテリオール大学(カナダ)客員教授等を歴任。一九九七年、岩手県立大学創立時のメンバーとして参加し、現

ジュネットは基本的に、パラテクストは他律的で補助的な言説である、と否定的な考えを示しているが、総合的な賢治研究を鑑みた時、果たしてパラテクストは不要なものであろうか。とりわけ、岩手の地に本拠地を置く「宮澤賢治センター」は、賢治文学そのものの本体である裸のテクストだけでなく、付帯的な「実感」というパラの部分をもどどのように活用するかが大きく求められているところである。もつとも、研究に携わる機関として、まずは、着実に、賢治作品そのものの本体、裸のテクストと向き合うことが基本である。基本の部分、パラの部分、それらを総合的に、このセンターで切磋できるような務めていきたい。

定例研究会の概要

本センターの主要行事である「定例研究会」は、学内外の講師に依頼し講演会を開催している。1月から6月までの概要を、各役員が分担して取り纏めた。

第6回 1月26日(金)

- ▽会場 岩手大学教育学部 2号館4階会議室
- ▽講師 岩手大学教育学部 助教授 木村直弘氏
- ▽演題 「賢治作品に底流する神話的思考について―童話『よたかの星』を例に―」
- ▽司会 望月善次氏
- 参加者三十八名。

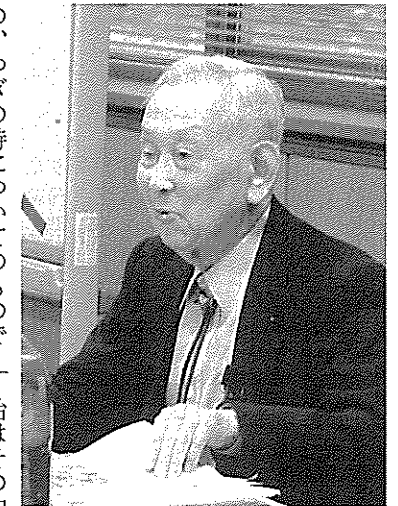
講演では、賢治の作品に流れる「神話的思考」(人生や世界の本質を捉えるために、動物などの生態についての具体的な知識を利用した論理的思考)について、レヴィイ・ストロースや中沢新一の論も参考にしつつ、世界各地の神話と比較してそれらの類似構造や共通項に注目した。南北米の「よたか神話」を見るに死や地下世界と関連づけられているものが多いという。

また、この鳥の特徴の一つに上下の高速な移動ができるもの、つまり二つの世界を媒介できるものという両義的・媒介的な性格が見られる。それは生の世界と死の世界の媒介者でもあり、そこには賢治の基底にあるシャーマンの思考が投影されているのではないかと話があった。

第7回 2月21日(水)

- ▽会場 岩手大学農学部 1号館2階第1会議室
- ▽講師 元小岩井農場長 島山章一氏
- ▽演題 「宮澤賢治の文語詩『悍馬』について」
- ▽司会 砂山稔氏
- 参加者三十八名。

講演は賢治の文語詩稿のなか



「賢治と(純)血馬」を語る島山さん

の、つぎの詩についてのものがあった。(原文は、二句一行)

悍馬 (一)

毛布の赤に頭を縛び、
陀羅尼をまがふことばもて、
罵りかはし牧人ら、
貴きアラヴの種馬の、
息あつくしていばゆるを、
まもりかこみてもうとも、
雪の火山の裾野原、
積き柏を過ぎくれば、
山はいくたび雲滄の、
藍のなめくじ角のべて、
おとしけおしいよいよに、
馬を血馬となしにけり。

詩中の「血馬」は従来考えられていたような、中国の古書に出て来る「汗血馬」のことではなく、blood horseの直訳で、「純」血馬つまりサラブレッドのことではないだろうかとして、それにもつぎの詩の新解釈を示した。島山氏によれば、この詩は仔馬の調教の様子をうたったものであり、最後の「馬

治はその知識をどこから得ていたのか。

英国では十七世紀になると競馬が盛んになり、原産馬だけでなく「東洋馬」(アラヴ)の種馬を入れるようになってきた。そのうち一七八〇年よりターピール競馬が始まり、一七九一年以降は血統登録書が作られるようになり、一八〇六年には雑誌ではじめて「サラブレッド」という言葉が使われている。

日本の盛岡高等農林学校には久合田勉という馬学の先生がいたが、賢治とはすれ違いであった。久合田の著に『馬学種類篇』『馬学蕃殖育成篇』『馬学外観篇』がある。このうち『馬学種類篇』には、サラブレッドは英国の原産馬にアラヴの血が混じって成立したものであると記されている。賢治もこれらの知識を学んでいたのではないだろうか、とその可能性を述べた。

第8回 3月6日(火)

- ▽会場 岩手大学 学生センター1G1教室
- ▽講師 漫画家 ますむらひろし氏
- ▽演題 「宮澤賢治に見えた風景―夢の視線―」
- ▽司会 山本昭彦氏
- 参加者二百名。

ますむら氏はこれまでにマンガやアニメで数回にわたって「銀河鉄道の夜」を作り出してきたが、その舞台裏、賢治の文章の読み込みと周辺事情の調査にまつわる話、賢治の樺太(サハリン)行きの行程や、ギルダちゃんの出でくる幻想的な詩の話など、多面的な話を聞かせてくださった。さらさらとした無数の星の世界のただなかを進んで行くように思っていた銀河鉄道も、よく読むと星についての直接の描写はあまりない、というちょっとびびりするような指摘と、その代わりにように百も千もある三角標(賢治は言葉で言うのはいけれど、漫画家が作画するのはすごく大変!)の



「ますむら」さんに質問する向井田会員

重要性から話は始まった。そしてお盆の時期が背景になっていると思われる「銀河鉄道の夜」と、「春と修羅」収録の「青森挽歌」の関係、またこれらの幻想と不思議な共通点を持つ「春」や「春夜奏曲」という詩篇について次々に刺激的な指摘があり、妹とし子の死とジョバンニやカムパネルラという作中人物の関係、さらには賢治自身の死の二ヶ月前の詩作までを語ってくれた。

質疑に移ると、賢治の北への旅行日程の鍵を握る当の「向井田さん」の御子息が質問に立たれた。あまりの意外さにますむら氏もびびり。が、絶好の機会なので、その後判明したことなどを語って頂く。さらに聞

第9回 4月27日(金)

- ▽会場 岩手大学 学生センター1G35教室
- ▽講師 岩手大学教育総合センター長 玉真之介氏
- ▽演題 「賢治を育んだ岩手の風土と農業・研究のための仮説」
- ▽司会 稲垣大助氏
- 参加者二十一名。

きたい点もあったが、あまりに長くなるので、残りは文章を拝見することにする。その後も参加者から次々に質問が続き、ますむらマンガのキャラクターについても色々楽しい話を伺うことが出来た。

「ますむら」さんに質問する向井田会員
きたい点もあったが、あまりに長くなるので、残りは文章を拝見することにする。その後も参加者から次々に質問が続き、ますむらマンガのキャラクターについても色々楽しい話を伺うことが出来た。神戸、秋田、東京などから駆けつけたファンもあり、その人気のほどを再認識させられる。ますむらさんはお昼に飄々と現れ、附属図書館(賢治の得業論文を白い手袋で慎重に見る)と農業教育資料館もじっくり見ただで講演に臨まれた。今回の企画はESD推進委員会による「学びの銀河」プロジェクトの一環であり、人文社会科学部宮沢賢治研究会とも共催して行われた。(山本昭彦 記)

「グスコブドリの伝記」に代表されるように、農業・農民への思いは賢治の作品における重要なモチーフである。同時に、「羅須地人協会」の設立や無料肥料設計など、晩年の賢治を突き動かしていたのも農業・農民への思いであった。では、賢治が生きた時代の岩手県農業は、どのような特徴を持っていたのか、また、それがどのように賢治に影響を与えたのか。このテーマについて研究するため、今回の報告では、おおよその見取り図を仮説的に提示してみた。

まず、先行研究として、亀井茂さんが雑誌「早池峯」等に発表された一連の研究が重要である。そこでは、賢治の作品と盛岡高等農林、そして恩師である岡豊太郎との関係が明らかにされている。これに対してこの研究は、さらにその背景となる岩手県の農業そのものの特質に焦点を当てて、それは端的に言うところ、「稲作に不向きな寒冷な風土」がもたらす社会的な問題である。

この意味は、稲作を柱とする中央集権的政治経済システムが日本の歴史の特質であることを踏まえて理解される。大和朝廷や徳川幕藩体制などはもちろん、戦時期に生まれた食糧管理制度

第10回 5月30日(水)

- ▽会場 岩手大学図書館2階 生涯学習・多目的室
- ▽講師 宮澤賢治学会副代表 理事 森 三紗氏
- ▽演題 「森荘巴池と宮沢賢治の交友について―主として賢治が佐一に宛てた書簡を通して―」
- ▽司会 中村安宏氏
- 参加者四十名。

宮澤賢治と深い交友のあった森 佐一(荘巴池)のご息女である森氏のお話は貴重で非常に興味深いものであった。今回は賢治が佐一に宛てた書簡を中心に根源的なお話や、ご息女でしか知りえない真実を伺えた。大略は「①、宮澤賢治の書簡の文学に占める位置、②、生命の次に大事な書簡、③、佐一への最後の書簡、④、書簡の美用性、⑤、詩誌同人仲間として、⑥、賢治の佐一に宛てた書簡の字体と用紙の特徴、⑦、佐一の詩集刊行の激励、⑧、賢治の佐一への忠告、⑨、佐一の結婚が賢治を蘇生させる、⑩、賢治は佐一の子供の誕生祝を届け、子供の成長を喜び、⑪、お互いに健康を気遣う、⑫、下書きが5通の丁寧な書簡、⑬、最後の手紙」と非常に盛りだくさんの内容で、

通例定例研究会は40分の話題提供、20分の質疑というような形をとっているが、今回は会場が森氏の話に陶酔し、大幅に話題提供の時間を延長してお話いただいた。佐一にあてた賢治の書簡を通して、賢治の人間性やその時々の感情、そして作品へと理解を向けて森氏のお話は進められた。その書簡から読み解く過程の中にも森氏の大変貴重な父である佐一の逸話、ご家族でなければ知りえないような観点をも含めてお話をいただいたことはこの上ない幸せであった。

特に印象的だった森氏のお話を紹介させていただきたい。一つは佐一が命の次に賢治からの書簡を大切にしていたこと。そのため、佐一は火事にあつたらまず、この風呂敷に入っている賢治からもらった手紙を持ってでると語り、家族にさえ勝手に手紙は見せなかつたとのことである。

森氏のとて熱のこもった、まるで賢治を愛しているかのような語り口が非常に印象的であった。そして、賢治への理解を深めるとともに、佐一という人物をより身近にそして偉大に感じられた定例研究会であった。

(飯村裕樹 記)

第11回 6月20日(水)

▽会場 岩手大学教育学部1号館3階会議室
▽講師 詩人・賢治研究者 吉田美和子氏
▽演題 「六月の賢治の風―カッコーとキササゲ―」
▽司会 中村安宏氏
参加者三十八名。

「今日は三つのお話があります」という一言から、講演は始まった。その一つ目は、「岩手大学にキササゲを植える」ということ。岩手大学農学部の前身・旧盛岡高等農林学校正門へのアプローチは、かつてはユリノキとキササゲの並木路であった。その並木は、後に同校第四代校長となる上村勝爾教授の指導の下、在校生の手によって植えられた。その際、賢治も実際に植えたのではないかと吉田氏は語る。しかし、この並木は昭和五十六年に伐採され、今では岩手大学の植物園にユリノキはあるものの、キササゲは姿を消した。吉田氏の言うように、賢治ゆかりの地に再びキササゲが植えられる日がくることを期待したい。

二つ目は「保阪嘉内がいた茅町の下宿・鎌田陶器店を見てほしい」ということ。この鎌田陶器店は、嘉内が盛岡を去った後、同人誌「アザリア」第六号(終刊)編集のために河本緑石(義行)が入った場所でもある。

さらに、三つ目は「河本緑石(義行)新婚の家の表示を設けてほしい」ということだ。河本緑石は、本名・河本義行。賢治や嘉内らとともに同人誌「アザリア」を結成した。賢治作品の中でも未完の大作「銀河鉄道の夜」に登場するカムパネルラのモデルについては、これまで多くの議論がなされてきたが、もし緑石の死が賢治に伝わっていたとすると、モデルは緑石である可能性は高い、と同氏は説く。

講演の終盤には、賢治の詩について持論を繰り広げた。その中で、賢治の詩は、『春と修羅』第一集の持つモダンさや華やかさを感じさせるものから、『春と修羅』第二集、第三集に見られる伸びやかさや落ち着きを感じさせるものへと変化していったと説く。それは、同氏によると詩作において自分の立ち位置を見定めていると共に、詩作そのものの成熟さをも表しているという。

最後に、同氏は語る。「我々が心地よく感じるイーハトブの夜風は、賢治にとっては決意を表している」と。

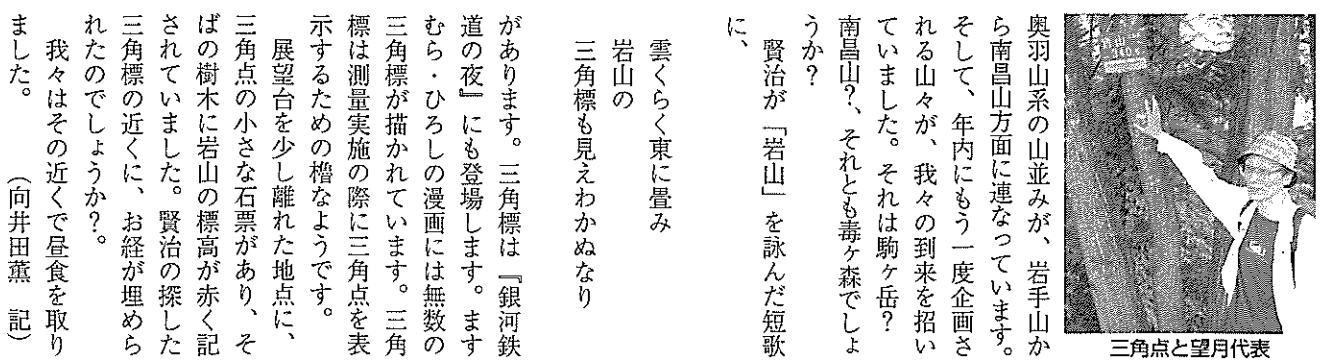
(稲垣大助 記)

「経埋ムベキ山」登山

宮澤賢治の「雨ニモマケズ」手帳の143・144頁に、岩手山や早池峰山を始めとする、32の「経埋ムベキ山」が載っています。望月代表は、盛岡山友会の江刺家誠さんの案内で全山の登山を検討中でした。果たして会員が歩けるかどうか？江刺家さんもそれが気がかりでした。

7月29日の「愛宕山・岩山」登山がその試金石となりました。心配された天候もマズマズでした。中央公民館から愛宕山へ、八幡宮から岩山へ。自分の足で辿る道筋には、可憐な草花が咲き乱れ、一行を楽しませてくれました。そこには、車社会に浸っている現代人の生活では、到底想像も出来ない爽やかさが感じとられました。

岩山の展望台からは、愛宕山が見下ろすことが出来ましたし、



三角点と望月代表

雲くらく東に置み 岩山の 三角標も見えわかぬなり があります。三角標は「銀河鉄道の夜」にも登場します。ますむら・ひろしの漫画には無数の三角標が描かれています。三角標は測量実施の際に三角点を表示するための標なようです。展望台を少し離れた地点に、三角点の小さな石票があり、そばの樹木に岩山の標高が赤く記されています。賢治の探した三角標の近くに、お経が埋められたのでしょうか？

我々はその近くで昼食を取りました。

(向井田薫 記)

宮澤賢治記念短歌会

この会は、昨年の7月6日以来、「百年記念館」で毎月開催し一年を経過しました。

現在の会員は10人(男女各5人)ですが、この会の運営状況について、二人の会員から次の項目について、ご意見を伺いました。

①初めて短歌を作ったのは、いつ頃ですか？
②毎月一回の開催はどう思いますか？
③課題の五首は何時頃作りましたか？
④賢治の短歌についての感想、見や要望。
⑤この会の運営についての意見や要望。

●姉齒武司さんは
① 初めて短歌を作ったのは会に参加してからですが、高校時代に古文で、いい短歌だと思いい、出来ればいつか自分も作って見たいと思っていました。
② 開催は現状の、毎月一回が丁度良いかと思えます。
③ 課題五首は、一ヶ月間で何か感じるものを出し、大体直前に作ります。
④ 今まで賢治の短歌は読む機会が少なく、啄木短歌を時々口ずさんでいました。賢治の作品は主として、童話でした。

⑤ 会の運営は今後も望月先生を中心にお願いしたいと思えます。特に先生からの時おりの指導等が非常にいいです。

まだ始まって数ヶ月で短歌は形にもなっていないと思えますが、日本語の響きの素晴らしさ、微妙なそして繊細な古語の表現等あらためて日本語の美しさに気が付くような思いがいたしてあります。初めに先生から短歌を作ることも大事だが、他人の作品を良く読めるようになり、まずと教えて頂きましたがそんな気がしております。この会を通して、自分の感性をより高めることが出来れば有り難いと思えます。

●吉田直美さんは
① 二〇〇〇年頃から作り始め、五〇代から啄木の勉強会で少しづつ作り始めました。それまで全く作ったことが無かったので、会員の方々の短歌を読むことがとても楽しみです。
② 毎月一回の今の開催で丁度良いと思えます。月初めに短歌会があると思うと、日頃短歌を考えながら暮らす日常になり、とても良いです。
③ 最近では、一ヶ月のあいだに、短歌にしたいような事があつたときに考えて作っておき、直前に手直して提出します。
④ 賢治の短歌は、感覚的にす

ぐ理解できる短歌と、何を詠っているのか全く判らない短歌がありました。賢治の伝記的な事や仏教的なこと、化学的なこと、そして農業に関すること。少しづつ知ること、随分短歌を理解できてきたように思えます。

⑤ 今のところ主宰の望月善次先生が歌会の準備を一手に引き受けて下さって、ご負担をおかけしていると思えます。前々回あたりから当日の司会を会員の交代で開催されていますが、パソコンを使えるメンバーで準備や連絡を順番にして負担が偏らないようにして、歌会の形を覚えていったらどうかと思えます。

私の選んだ三首
姉齒武司(盛岡市西青山2)
・高松の池の端の夜桜の密花の間より朧月見ゆ
・温泉の面に朝陽輝き照り反射し天井に映りし散り寄る光波
・小岩井も賢治の時代はまだ不毛色彩ではモノクロ今は光彩

飯村裕樹(岩手大学教育学部2年)
・新たななる声や笑顔が光る春山々が動き出す音がする
・平線の一ツコ車両を見渡しているはずもない君をさがして
・人の影真直ぐに空をつきしビ賢治が愛した夕暮れの街

稲垣大助
(岩手大学大学院教育学研究科2年)
・君が身を案じていうことなれどそれが愛とは知るはずもなく
・主義者より信者と訳すビヂテリアン活字に宿る賢治の魂
・開墾の地にある石に腰かけて賢治のぬくもりそつと感じる

大林あや子(盛岡市本町1)
・はなやかなお礼の言葉置き去りてなんじゃもんじゃの花咲く木下
・とりとめもなき日の暮れて寺庭に回すマニ車鉄さびし音
・掃り路の思わぬ暑さ山法師咲くしずもりに心さやけし

北田まゆみ(盛岡市東黒石野1)
・己が影動くを一途に見つめ居て孫は不思議の入口に立つ
・わが傍を追い越す速度に風生れて若きらの街ゆるりと歩む
・「すきとおる風」を吹かしてみちのくの春を呼ぶのは賢治さんかも

佐藤静子(盛岡市西青山3)
・クレマチス咲きて六月紫の女の背筋びちつと伸びる
・明け渡す日の近づきて空っぽになりたる家の間の広がり
・氏神の祠が上に紫陽花は途方にくれたることさの重さ

平田真子
(岩手大学教育学部3年)
・雨上がり道行く人も嬉しげに駆け出すサンダル午後が始まる
・薄皮にふきのとうそつと包み込み陽の中で揚げるこれぞ春巻き
・早過ぎたさくらんぼ狩りの断念路ハウスも我も青すぎる青

三木与志夫(望月善次)
・重心を移すしぐさのさごちな賢治は歩き遂に駆け出す
・時にして(自己満足)の過ぎりしや(賢治の農)にひたひたと水
・夏草の茂れるままの川沿いに立ち尽くしたる賢治よ賢治よ

向井田薫(盛岡市安倍館町)
・鬼古里を越えて沼森・箱ヶ森賢治のフィールド遠く涯なし
・我が歌の思い適わぬその時は賢治の像をジッと見つめて
・秩父路の歌碑巡る旅日限り「かんばの宿」に夕陽輝く

吉田直美(盛岡市緑ヶ丘2)
・春先の雪かと思う花びらの舞い散る四月惜しまれて桜
・黒き幹覆い隠して桜花此処は東京花のみの春
・空豆は薄緑色空豆のかたちを持ちて春を告げたり

学生大会から学生研究会への飛翔

二〇〇六年八月二十八・二十九の両日に開催された「第一回全国宮澤賢治学生大会」の成果を踏まえ、同年十月二十一日に全国宮澤賢治学生研究会が発足し、具体的な活動を展開している。そして、「第二回全国宮澤賢治学生大会」の開催方針も、このほど決定した。

「第一回全国宮澤賢治学生大会」の反省

ここで昨年の「第一回全国宮澤賢治学生大会」(以降、同大会とする)を振り返ってみよう。大会一日目の会場は、賢治の母校・盛岡高等農林学校跡(現・岩手大学農学部附属農業教育資料館)。この賢治ゆかりの地での開催により、身も心も賢治一色の大会であったといえよう。大会参加者は、一日目だけでも百三十人を超えた。学生については、岩手大学以外では盛岡大学、岩手県立大学、高知大学、日本女子大学、天理大学、中央大学等、全国各地の学生が駆けつけ、当初の目標を達成出来たと考えている。

学部の学生(院生も含む)のみの組織である実行委員会が務めた。これは、学生自身が大会の主体となつて開催し、大会内容や成果、また活動自体を積極的に全国に向かって発信していくことが中心の目的であるからだ。今回の大会は、全国の学生が集まるのが目的ではなく、全てにおいて「学生主体」を前面に押し出し、それを含めた上で大会自体を全国に発信していくことが目的なのである。

また今回は、三つの交流を目標として開催した。一つ目は、「賢治の交流」。二つ目は、「学生間の交流」。そして三つ目は、「地域との交流」を掲げた。その結果としては、①賢治の生き様、賢治作品の魅力はこの大会で感じ、②各分野の多くの学生が交流し、③学生が地域の方々にいかに学べるか、そして、発信して行くか等の点について、それなりの成果を上げ得たと思っ

「第二回全国宮澤賢治学生大会」の開催

今回の売りは、やはり「賢治短歌へ」(二〇〇七、洋々社)、「宮澤賢治 東北砕石工場技師論」(二〇〇〇、洋々社)、「宮澤賢治から「宮澤賢治」へ」(一九九三、学芸書林)など賢治に関する根源的研究を発信し続け、二〇〇〇年には花巻にある宮澤賢治学会から宮澤賢治賞を受賞された佐藤通雅氏を講演者として招いた「基調講演」だろう。

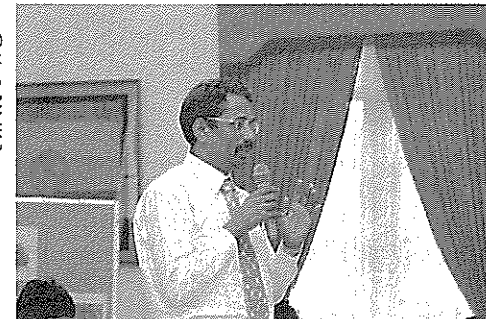
さらに、楽器演奏を取り入れたオープニングセレモニー、全国の学生が研究成果を発表する研究交流、賢治童話をテーマとするパネル・ディスカッション、「盛岡賢治ゆかりの地を巡る」と題した実地研修等、第一回大会を更に躍進させた企画を揃えている。きつと参加者にとつて満足いく大会になると信じている。

大会の概要

- ☆期 日 二〇〇七年十月六日(土)、七日(日)
- ☆場 所 岩手大学学生センター G1大講義室(〒020-8550盛岡市上田3丁目18-33)
- ☆内容
- ①オープニングセレモニー 賢治に関する音楽演奏
- ②研究交流
- ③佐藤通雅氏 基調講演「賢治短歌の見方」
- ④パネル・ディスカッション「学生たちの読む賢治童話」
- ⑤実地研修「盛岡賢治ゆかりの地を巡る」



「研究交流」発表者深見美希さん(日本女子大)



講演の P.A.ジョージ博士(インド・ネルー大)



講演の原子朗氏は、賢治研究家にして高名な書家



附属植物園で説明中の安藤亮太君(岩手大)

☆参加費 無料(但し、実地研修保険料100円)
 ☆申込み 電話/019(621-6672(宮澤賢治センター))
 ☆アクセス/019(621-64993)
 メール/kenji.zenkoku@hotmail.co.jp

ホームページ/ <http://kenji.bokunet.jp/>

全国宮澤賢治学生研究会の発足

「第一回全国宮澤賢治学生大会」の成果を踏まえて、全国宮澤賢治学生研究会(以下、学生研究会)は、二〇〇六年十月二十一日(土)に行われた第一回定例研究会で正式に発足した。その目的は、学生大会が目指した目的の一つ「学生間の交流」に重点を置いていく。

研究会が今後目指していく方向性は、学生の横の繋がりを広げ、「一人でも多くの仲間と共に宮澤賢治の理解を深める輪を広げていくこと」に尽きる。

規模に関しては、発足時五十名にも満たなかった会員が、今では岩手大学以外の大学の学生(院生)、高校生も含め約百名を超える団体となった。研究会は、岩手大学、岩手県立大学、盛岡大学の三大学を母体としてローテーション制で回るといふ形で行い、会場となる大学が企画、準備を行っている。そのため、三大学間でそれぞれ副代表を置き、会長共々の運営に携わっている次第である。

これまでの定例研究会の内容を簡単に記す。

- ▽ 第一回(岩手大学) 研究会発足式
- ▽ 第二回(岩手大学) 稲垣大助(同会・会長、岩手大学大学院一年)「宮澤賢治のベジタリアニズム」変容と希望」(研究発表)
- ▽ 第三回(盛岡大学) 芳賀洋平(同会・副会長、盛岡大学三年)「雨ニモマケズ」を読む―デクノボーを中心として―(話題提供)
- ▽ 第四回(岩手県立大学) 佐々木民夫先生(岩手県立大学社会福祉学部教授)「宮澤賢治と岩手県」(講演聴講)
- ▽ 第五回(岩手大学) エフセエフ・エカテリーナ(岩手大学大学院一年)「宮澤賢治作品における動物の描かれ方について」(研究発表)
- ▽ 第六回(盛岡大学) 盛岡大学会員一同「イーハトーブ幻想 KENJIの春」(一九九六、バンダイビジュアル)上映(アニメ鑑賞)
- ▽ 第七回(岩手県立大学) 澤井夏美(同会・副会長、岩手県立大学大学院一年)「Kenjiプロジェクト」の概要、「賢治らしさ」について考える」(研究発表)

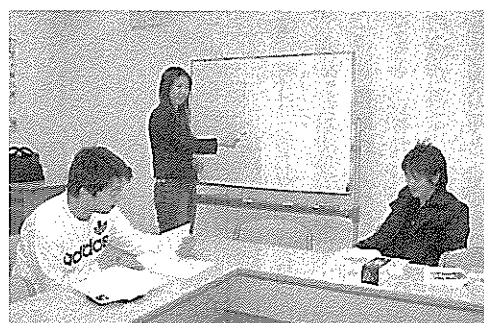
- ▽ 話題提供
 - ▽ 第八回(岩手大学) 下町佳孝(岩手大学科目等履修生)・佐々木志織(岩手大学三年)・飯村裕樹(同会・副会長、岩手大学二年)「賢治を耳で感じる―「グスコップ」の伝記」音楽と朗読」(音楽会)
 - ▽ 第九回(盛岡大学) 伊藤愛(盛岡大学二年)「狼森と依森、盗森」を読む」(話題提供)
 - ▽ 第十回(岩手県立大学) 澤井夏美(岩手県立大学大学院一年)「賢治に対するイメージについて」フリーディスカッション(プレインストロミング)」(話題提供)
- ・更なる飛躍を目指して
 今後としては、全国的に知名度を上げていき、徐々に会員の地理的範囲を広げていくと共に、活動の種類に賢治ツアー(盛岡・花巻等)や野外合宿(スキー・登山・各種レクリエーション等)等を入れるつもりである。その上で、会員の団結や会の充実性を育んでいきたいと考える。(今後の研究会の展開については、岩手県立大学ソフトウェア情報学部所属する会員の下で、全国宮澤賢治学生研究会ホームページ)



賢治童話についての意見を交わす盛岡大生



第5回研究会のエカテリーナさん(ロシア・岩手大)



今後の方針についての話し合い



第7回研究会の澤井夏美さん(岩手県立大)

ページを開設する。ご意見ご感想などをいただけると幸いです。()

「全国」と銘打っている以上、その名にふさわしい研究会作りを目指し、今後も更なる飛躍を目指していきたい。

最後になるが、学生が中心になり、自主的に開催し、発足し

た「全国宮澤賢治学生大会」であり、「全国宮澤賢治学生研究会」であるが、主催者たる「宮澤賢治センター」(岩手大学内)が、学生への期待や信用の上で、同センターの一大事業として打ち出して頂いたことに深く感謝を申し上げます。

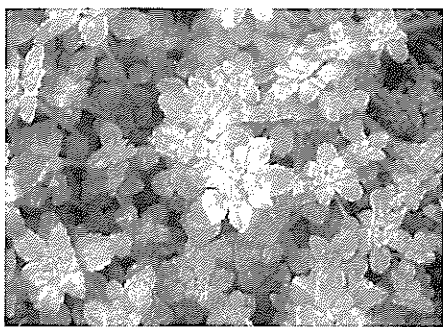
(稲垣大助 記)

会員からの投稿

「小岩井ウォーク」に参加して

盛岡市西青山三丁目
佐藤 静子

昨秋にも開かれた小岩井ウォークであるが、賢治が実際に歩いた五月二十一日の空気にも触れてみたい、今回も参加をする事にした。案内者は前回同様、小岩井農場を知り尽くしている岡澤敏夫さん。出発は盛岡駅。小岩井十時着。そして……



小岩井農場の花【猫の目】

わたくしは、ずいぶんずいぶん、汽車からおりた。賢治の長編詩「小岩井農場」の始まりである。私もすばやく電車から降りてみる。雲は、きらりと光ったかどうか。前日の肌寒さが一転して、歩けば汗ばむ陽気の中、かつての農場の入り口に着く。もう入口だ。「小岩井農場」(いつものとほりだ)農場へというより、森へ誘うような小道である。ここに案内板でもあればいいと思う。小岩井農場は広大な原野に作られ、賢治の頃は三百六十度の眺めであったようだ。今は植林された樹々が大きくなり、当時の視界を遮っている。花々も彩りを添え、農場は賢治の時代とは違った顔を見せているのだから。それでも賢治の詩を辿って歩いてみれば、ここかしこに賢治の気配が感じられる。何より雄大な岩手山、鞍掛山もやっぱり西に偏って見える。本部の気取った建物も四階倉庫も残っているし、冬には子供らの声の響いた藍色の水の池もある。賢治の「聖なる地点」は、今でもへなにとはなしに聖いころもちにさせられる眺めだ。だが、傍らの県道の交通量の激しさ。聖なる気持ちも吹っ飛ばさうだ。ひばりも雉の啼き声も聞こえなかったが、私たちが五月のきんいろの外光のなか、岡澤さんの説明を受けながら、時には笑い、時には黙々と四時間ばかりを歩いたのだ。歩き終えれば、

あの長さに圧倒され、敬遠ぎみだった賢治の歩行詩「小岩井農場」が、ぐっと身近な詩になっていた。(傍点部分は賢治作品を使用)

長瀬に「賢治歌碑」一基建立

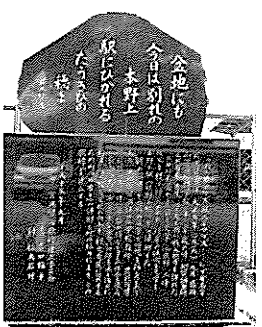
盛岡市安倍館町
向井田 薫

宮澤賢治が、関教授と神野助教に引率されて秩父地方地質調査旅行に参加したのは、今から九十一年前の大正五年九月二日から八日迄であった。賢治は甲斐国(今の山梨県)駒井村に帰郷中の保阪嘉内にハガキを出し、短歌で旅の様子を伝えた。嘉内宛の二通の葉書と、賢治が採取した岩石標本で、調査の日程が推定されている。上野で合流した一行は、熊谷に一泊し、熊谷へ寄居と荒川筋を遡上し、ガタ馬車で小鹿野に向かった。



長瀬・「虎岩」前の賢治歌碑

熊谷市の宿泊地跡、八木橋デパート前には、「熊谷の蓮生坊がたてし碑の旅はるばると泪あふれぬ」の碑が建立され、裏面には、「武蔵の国熊谷宿に轍座の淡々ひかりぬ九月の二日」が刻まれている。(平成九年九月二日建立・除幕、建立者 くまがや賢治の会)熊谷から大里郡・寄居町に向かい、いよいよ岩石調査の開始である。その様子を詠った歌碑(寄居保健所前の荒川筋)には、次の短歌二首が刻まれている。「毛虫焼くまひるの火立つこれやこの秩父寄居のましろきそらに」「つくづくと「粋なもやうの博多帯」荒川ぎしの片岩のいろ」(平成五年九月・寄居町宮沢賢治歌碑建立実行委員会建立) 国神(秩父郡・皆野町)に宿泊した一行は、翌日の早朝に三台の馬車で小鹿野町に向かった。目的は「ようばけ」と言われている大堆積層の調査である。賢治の一年後輩の保阪嘉内も翌年訪れたこともあり、この地に二つの歌碑が並んで建っている。「さはやかに半月かかると賢治の秩父の峡のかへりみちかな賢治」



秩父鉄道・野上駅前の賢治歌碑

「この山は小鹿野の町も見へずして太古の層に百合の咲く」嘉内「小鹿野に一泊した賢治ら訪ねたく、梅雨の晴れ間に旅立った。景勝の地「長瀬」での夜、宿のご主人に賢治のお話を伺った。三峯山から荒川筋を下降した一行は、日本地質学発祥の地・長瀬を調査して、本野上(現在の野上駅)から盛岡へ向かった。長瀬の「虎岩」こそが「粋なもやうの博多帯」と詠った「片岩」であることから「虎石」近くに、「つくづくと「粋なもやうの博多帯」荒川ぎしの片岩のいろ」そして、野上駅前に、「盆地にも今日は別れの本野上駅にひかれるたうきびの穂よ」の二基が、宮沢賢治歌碑建立委員会により、平成十五年九月に建立され、秩父路の「宮沢賢治歌碑」は六基となった。



賢治のチヒロ・生演奏を聴いて
教育学部 生涯教育課程2年
石井 綾 香

「啄木新婚の家」から、「盛岡城跡(岩手公園)」を経て、賢治が下宿していた場所を通った。この辺りで賢治は、方言短歌「ちゃんちゃんがうまこ」を作ったといふことで、今でも続いている「チャグチャグ馬つこ」の行事に賢治も触れていたという事実は親近感が湧いた。

光原社のある材木町の通りは、まさに賢治一色であった。「いーはとーぶアベニユー材木町」と名づけられ、賢治の像や、チェロの音座があり、一日に三回しか流れないという賢治の生演奏を、幸運にも聴くことが出来て嬉しかった。

光原社には賢治直筆の原稿などが数多く展示されており、その字は丸みを帯びたユーモラスな字だった。この字からあの有名な作品が出来上がったのだと想像すると、自然と納得できた。賢治の下宿先であった徳玄寺では、実際に賢治が使っていた八畳間に入れた。ゆったりとした広さで、かなり住みやすかったと思われたし、天井に近い壁などが色あせており、現在までの時の流れを感じた。そして、高等

農林時代に仏教を学ぶために訪れた願教寺にも行った。最後に訪れた報恩寺は、啄木・賢治の両者に縁のある場所である。緑にあふれたこの場所は、涼しく落ち着いた場所と、両者が好んで訪れた、其の気持ちが分かったような気がした。

約半日で多くの場所を見たので、それぞれの滞在時間は短かったが、貴重な体験が出来たので満足である。盛岡に来て一年以上になるが、盛岡についても、啄木と賢治についても更に知りたくなつたし、啄木や賢治がこの地を愛し、数多くの作品を残した理由も分かったような気がして来た。



現場で体感したバスツアー
教育学部 生涯教育課程1年
柴田 良 輔

バスツアーに参加して「啄木も賢治も時代こそ違え、私達と同じ景色を見て暮らしていた」ということを実感した。私は小学生の頃から、盛岡城跡公園をしばしば訪れていた。此の場所に、啄木も賢治も好んで訪れていたことが、まるで同じ感覚を持っていたかのよう

バスツアー印象記(学生編)

▽日時 平成19年8月27日(水)
岩手大学正門前8時半~12時半、発着。
▽コース 啄木新婚の家-盛岡城跡-材木町-光原社-徳玄寺-願教寺-報恩寺山門前にて武野千紘さん(教育学部生涯教育課程1年)
▽写真 眞 暁
▽イラスト



に感じられとても嬉しかった。

今まで私が行ったことがなかった材木町の「光原社」は非常に興味深かった。この建物は「注文の多い料理店」の発刊縁りの場所と、賢治自身が名付け親であること。宮沢賢治には、及川四郎という後援者があり、彼は棟方志功や芹沢銈介などの芸術家の若いときを支援していたこと。驚いたのは「蔵」にあった。彼等の作品の数々だ。



賢治の命名した「光原社」を見学して
教育学部 生涯教育課程2年
薄衣 景 子

私は芸術に興味があり、県立美術館にもよく出かける。昔はアメリカ・ヨーロッパを放浪していたこともあり、その街にある美術館は必ず見てきた。普段は公開されないこれらの美術品は、県立美術館より素晴らしい作品と思う。何か、及川に対する感謝の念が、その作品から伝わってくる。

今回のバスツアーは、啄木が間借りしていた「啄木新婚の家」から始まり、「不來方の家」から始まり、「不來方の家」から始まり、「不來方の家」がある盛岡城に向かった。そして、啄木の字で書かれたという「もりおか」を眺めながら、盛岡駅前から材木町の「光原社」に向かった。

「光原社」は、宮澤賢治が生前に出版した「注文の多い料理店」の出版元として知られており、創業者である及川四郎とは盛岡高等農林(現岩手大学農学部)の同窓で、賢治が一年先輩だった。及川は、卒業後親友の近森善一と二人で「東北農業薬劑研究所」をおこし、農業薬劑の製造や農学校関係の教科書の出版で

啄木が間借りしていた「啄木新婚の家」や、徳玄寺で賢治が下宿していた部屋の広さを自分で確かめることができた。まさに「実際に現場に行つて、体感する」ことが出来た「バスツアー」だった。

事業は順調に回転していた。教科書販売の目的で、花巻農学校の賢治を訪れた近森は、賢治が書いた童話の原稿を見せられ、出版の意向を告げられた。近森により盛岡に届いた原稿は、及川により出版が決定され、三人で「注文の多い料理店」の書名が決められ、賢治により「光原社」の社名となった。(以上「光原社」発行の資料より)

「光原社」を後にして、バスは寺町に向かった。賢治の最初の下宿先(清養院)前を通り、徳玄寺、願教寺そして、報恩寺を訪ねた。報恩寺は立派な山門と五百羅漢で有名であり、今回訪れたお寺の中では、一番気に入った場所であった。啄木がまだ中学の学生だった頃、この寺によく遊びに来ていたそう。木立の間から、啄木が感じたのと同じ心地よい風が吹いていた。

宮澤賢治センターホームページ情報

賢治センターの情報を集約し、発信したい 〜岩手大学技術部・那須川氏の想い〜

宮澤賢治センターのホームページにアクセスすると、まず目に飛び込むのは移り変わる美しい写真たちだ。これらの写真の大半は、このホームページを作成された那須川徳博氏が撮影なさったものである。那須川氏が賢治ゆかりの地、花巻などを自ら歩いて撮られた写真は、賢治が夢見たイーハトーブへと我々をいざない、岩手の自然の美しさを改めて語りかけているかのようである。「この写真を見て、賢治への興味や岩手への興味を持つてくれたら嬉しい」と那須川氏。

宮澤賢治センターのホームページは見やすく、かつわかりやすい。それでいて、ホームページの全体のデザインは賢治をモチーフにして、凝ったつくりになっている。那須川氏曰く、このホームページ作成のためには多くの時間を費やしたそうである。また、機能性にも非常に優れている。入会の手続きは名前やメールアドレスなど必要事項を記入していただき、「登録ボタン」を押すだけと非常に簡略化されていて、賢治センターの「どなた

もどうかお入り下さい。決してご遠慮はありません。」という精神を感じさせる。「賢治センターの皆さんの期待にこたえられるホームページを作り上げられるか不安でした」那須川氏は、ホームページ作成の打診を受けた当時は振り返る。那須川氏の不安は杞憂に終わり、ホームページは賢治センター内外からも非常に好評を頂いている。「このホームページ作成を機会に賢治への見方が変わった」那須川氏の以前の賢治に対する見方は、ただ漠然とした名前だけの「宮澤賢治」というイメージに過ぎなかった。

宮澤賢治センター ホームページ

http://kenji.cis.iwate-u.ac.jp/

宮澤賢治センター

お問い合わせ

新着情報

- 第1回「緑理ムベキ山」登山 2007年7月29日(日)
- 7月定例研究会 2007年7月20日(金)
- 糸賀真知子コンサート 2007年7月1日(日)

賢治生誕110年の年である2006年の開学記念日[6月1日]を期して、岩手大学では、「宮澤賢治センター」を設立することになりました。

定例研究会のご案内と報告

お知らせ

お問い合わせ

宮澤賢治センターの連絡先

設置場所: 岩手大学内「百年記念館」

日常の連絡先: 岩手大学地域連携推進センター

TEL: 019-621-6872 FAX: 019-621-6493

E-mail: renkei@iwate-u.ac.jp

しかし、実際に作品を読み、ゆかりの地を自らの足で訪ねるにつれ、賢治は「想像力の豊かな人」、「感性が非常に優れていた人」というような具体的なイメージを持つようになっていたという。そのような那須川氏の賢治と向き合う真摯な姿が、真直ぐにこのホームページに表れている気がしてならない。

「現状では、まだまだ情報を集約し、発信しているとは言い切れない。更なるホームページの内容の充実を目指したい」ホームページとともに皆様の「意見・ご要望を受け進化し続けていく。」(飯村裕樹 記)

編集後記

▽77歳のロートル(向井田)と、20歳の輝くヤングマン(飯村)で編集を担当しました。3号では、先ず活字を大きくし、より見やすくしました。(薫)

▽先輩とのコンビで、素晴らしい作業に取り組みました。ヤングより高齢者?が輝く時代に相応しい「通信」になることを願いながら……(裕)

▽「岩手山」「小岩井農場」「風の又三郎」「ざしき童子のはなし」等、朝ドラ『どんど晴れ』には、賢治作品が次から次に登場しています。(薫)

▽「どんど晴れ」とともに盛岡が盛り上がりつつありますよ!「賢治の精神」が全国のお茶の間に流れているんですね!(裕)

▽三人の新役員から、当センターに対する力強い励ましのメッセージを戴きました。(薫)

▽賢治が時間を超えて愛されているように、「賢治センター」も未永く愛されるよう、ヤングも頑張ります!(裕)

宮澤賢治センター通信
発行 盛岡市上田四丁目三番五号
電話 019-621-6672
FAX 019-621-6493
E-mail: kenji@iwate-u.ac.jp
宮澤賢治センター(岩手大学内)
発行責任者 望月善次
印刷 杜陵高速印刷株式会社